

空と窓と、

京都の路地は奥に深いです

mu

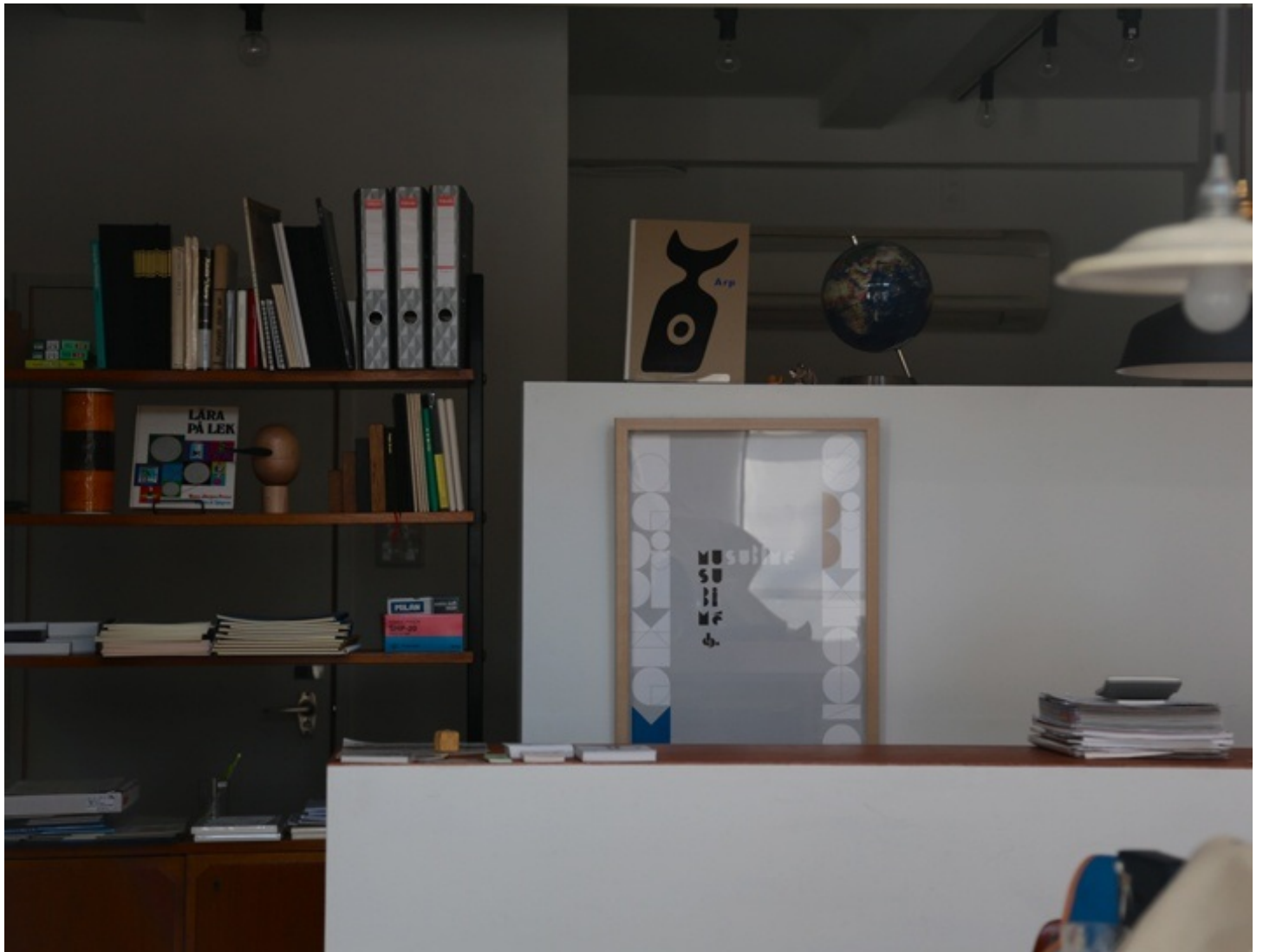


西院から市バスに乗ります。

最寄りの停留所は「北野天満宮前」になるんですが、
乗ったバスの経路の都合で、「北野白梅町」で下車します。



バス停の近くにあった住宅
風情はともかくとして、この右の角↑の
角度がやたら鋭角になっていて、不思議に思ったので。



文房具とセレクトショップの中間ぐらい
微妙だなあ、、、

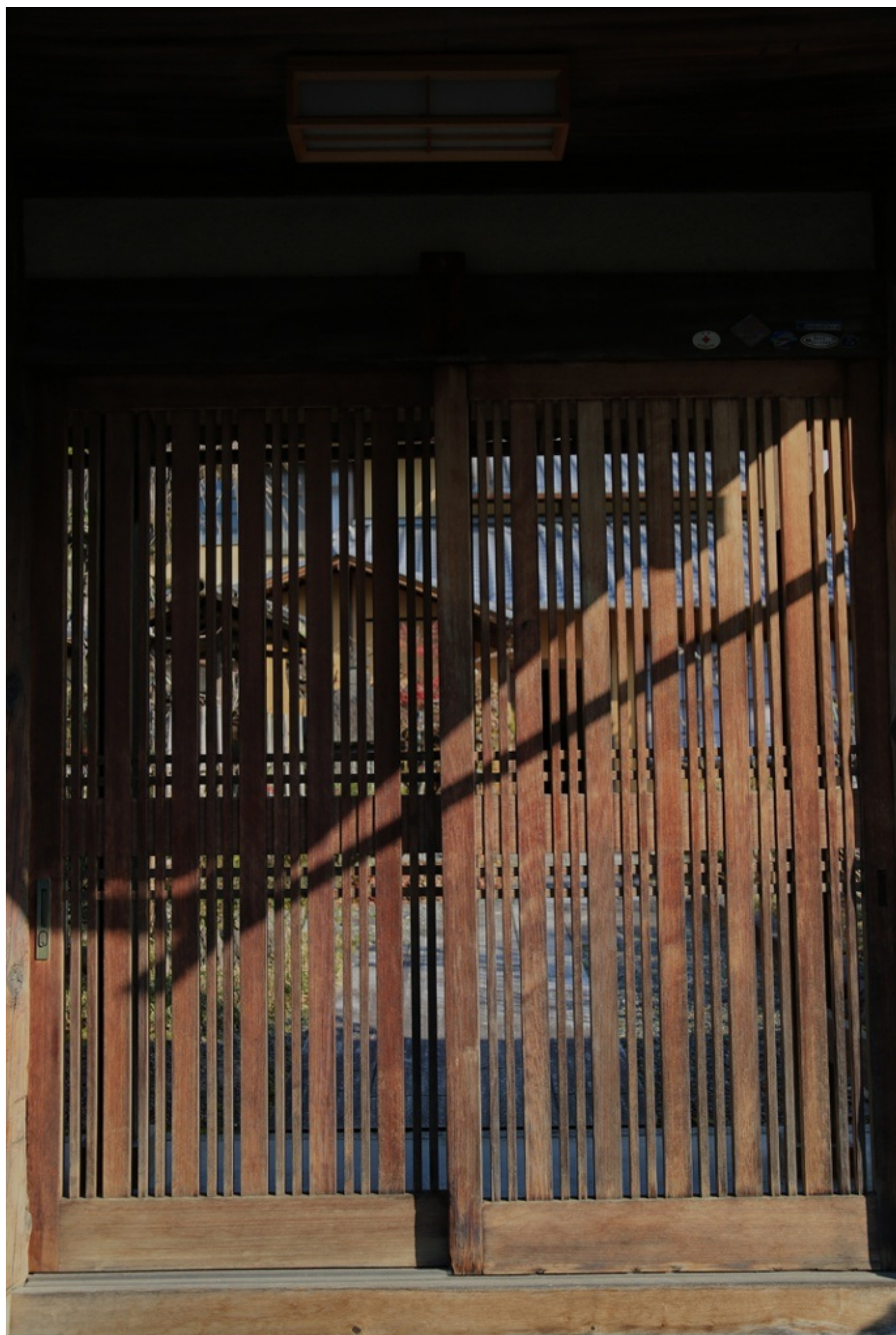
京都にはAngersという超有名なセレクトショップがあるんですが、
町を中心部以外にも、こういう店が増えてるのか。

儲かってるんだろうか。。。



いわゆる“鰻の寝床”

表札を見るとこの奥に12軒分の家が有る。
でも、どうしてこんな建て方になったんでしょう。







大鳥居

本当にでかい。狛犬も青銅製で偉そう。

さすが天神さんの本家です。



開き始めた梅がお出迎え。
このとき（3月7日）は、まだ3分咲きぐらいの感じでした。



入って直ぐのところに茶室がありました。
神社関係で茶室の有るところって、あまり見た事が無いんですが、
さすが北野天神、、、と感心したのは甘かった。



苔が美しかったので、茶室の生け垣の下から



なんだか鳩に取り囲まれてしまいました。
なんか、バサバサっと飛んで集まってくるんですよ。

おそらくこのあたりで餌を撒く人がいるんだと思います。
それと間違えたんでしょうね。

茶室があるぐらいで驚いていてはいけない。

なんと北野の天神さんには、

狛犬 2



狛犬 3



狛犬 4



(一部割愛)

というわけで、数えてみただけで

6 対の狛犬さん（1 2 頭？）がいてはります。



そして、この大きな門 「楼門」
さすがに知恩院の山門よりは小さいですけども、
格子窓のあたりに人の頭が来ると思ってください。

でも、これがまだ一つ目の門なんです。



楼門の中の「随臣」
仁王像の真似ですね。

仁王像と比べて、造形的な価値は低いと思いますが、
とはいえ、服装なんかには資料的価値があると思います。



楼門をくぐって両側の梅が美しい。
朝のうちでしたので、香しくもあり清々しくもあり。
三分咲き程度でもこの華やかさです。

修学旅行生が沢山来ていました。



女子って、何故か腕組みますよねえ。
男子がやるときもいんですけど。。。



加賀麩にこういうのが。手鞠麩だったかな。
でも、“鶯ボール”の方がやっぱり似ているかも。



可憐だ。



三光門（中門）、、、と狛犬。

道真公、、の祟りって、余程恐かったんだろなあ。
（その辺りは岡野玲子の陰陽師 7巻あたりが詳しい）



本殿前につきました

規模だけの大きさで言うと、平安神宮とか大きなものは
幾つも有るのでしょうけど、物語性とか呪術性でいえば、
天神さんの右に出るものは無いのではと思います。
京都で言えば、天神さんは市内に25社もあるそうです。

わたくしは、聖人君主ではない市井の一員なので、
神社関係では天神さんが一番お気に入りです。



修学旅行は京都が良かったなあ。
何で信州くんだりへ。。。



ここ、ほんと金回りがいいようです。



こけたら、あきまへんえ。



ようお参り。





梅苑も整備されているんですが、入場料600円です。
ですが、境内の梅が良く手入れされていてとても綺麗なので、
あえて梅苑に入る必要も無いと思います。







さて、梅はこれぐらいにして、上七軒の方に出ます。
上七軒というのは、祇園と並んでお茶屋さんの多いところです。

その近くにあるアンティークショップで。
このごろ、理系っぽいアンティークを扱ってる店が増えています。



その隣にビストロがあって、ランチの仕込み中でした。
そのおとなりが、ウエディングドレスの工房。

うーむ。憧れの「職人の店」って感じです。







いい色に撮れた。



看板？ だよなあ。



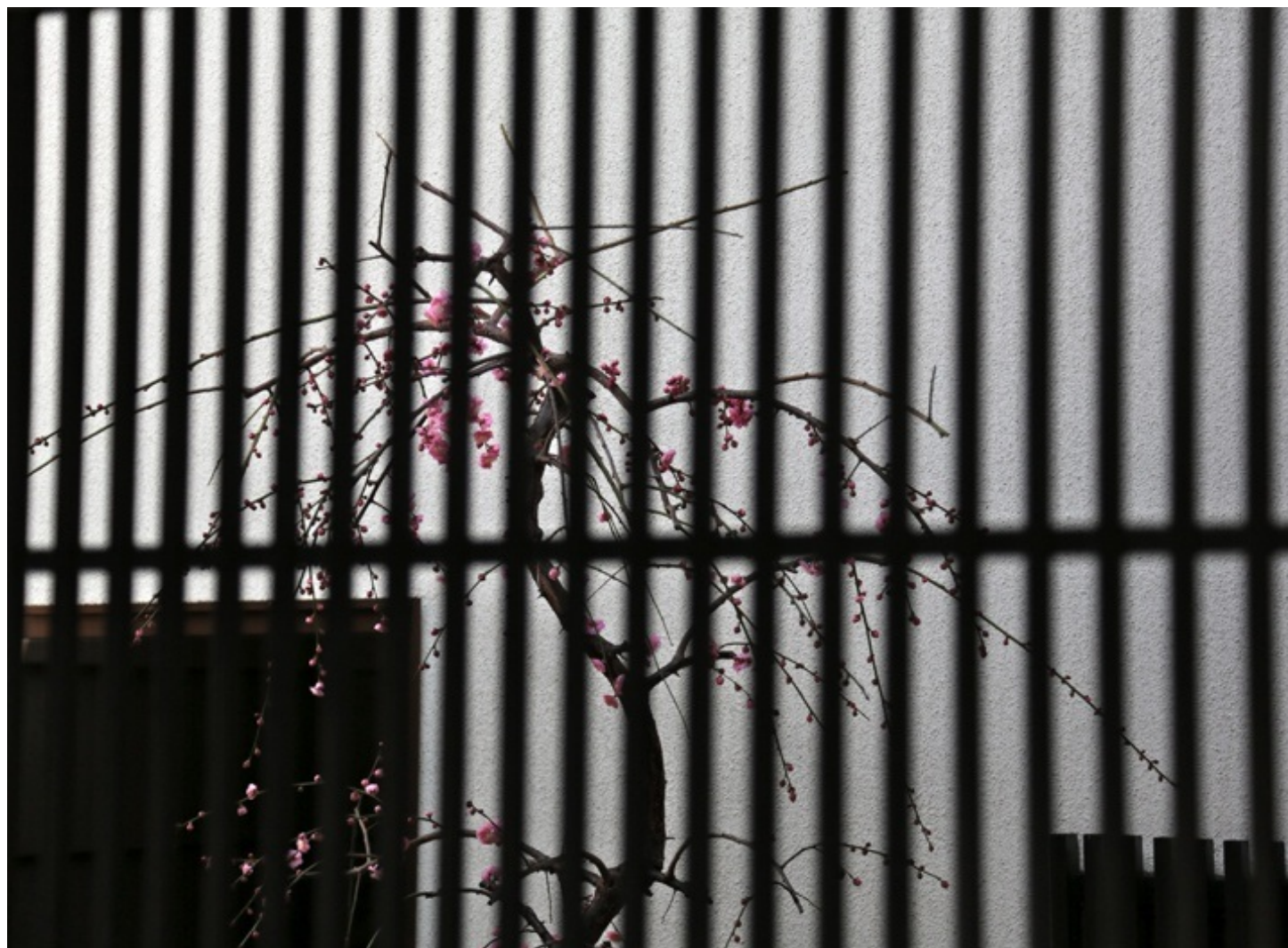
すごいことになってる屋根だなあ、と思ったら、
瓦屋さんでした。

子供が怖がりそう。



上七軒の通りです。
電線が地中化されていて空がすっきりしています。

でも、この街灯がなあ。
安っぽい材質だったので、傷むのも早いと思います。
デザインもイマイチだし。もっと周りの風景に溶け込まないと。



格子の向こうの梅が、舞っているよう。



お茶屋さんの玄関には、ぼんぼりが吊るされています。
その下に、風で揺れないように重しをつけているようなんですが、
ここのはがま口ですね。ちょっと珍しい。

まあ、今流行ってるからなあ。



通りのさらに奥の路地
魚の小骨みたいなもの



暖簾 の下の踏み石
もとは石臼の上半分ですね。

形は面白いですけど、元は食べ物を扱っていたものを
踏み石に転用するのは、どうかと思う。
上品なお庭でも時々みかけますが、転用はともかく足の下に置くなんて。



いいですねえ。

ものすごく嫉妬かわいいお店みたい。

そして実際のやきもちは、こんなです。



ラップに包んで、1個から売ってくれはりました。

残念ながら焼きたてではなかったんですが、
この餅の皮の部分が3mmぐらいしか無い！！

わたくしも、年末に餅を丸めて数十年経ちますが、
どうやったらこんな薄皮の大福が作れるのか、全く分かりません。



その近くの老松の店先で。
ぷっくり。





地区によって貼ってあるものが少し違ったりします。
このあたり西陣になるんですけど、
西陣内地向絹人絹織物調整組合 登録工場というのが
目新しかったです。



これまで採集して来た中で一番古そうな牛乳箱



がま口屋さん

がま口だけで商売になるというところが。
油取り紙、手ぬぐい、お香、そしてがま口。
次はなんだろう。かんざし辺り、、、

絶対当たりませんけどね！



西陣らしいところを

木へんに予なんて、普段使いません。

桴（ひ）

機織りの時に緯糸を通す道具なんですけど、その製作所。

当たり前のことなんですが、作ってるんや！ と。



この窓もいいなあ。
周囲の部分が磨りガラスになってますね。
木の棧の細さがまた都会的。



唐突ですが、これでもか、とばかりに玩具を並べたおもちゃ屋さん。
奥の方に入って行ったら、３０年ぐらい開封していないおもちゃとかあったりして。

あ、なんか思い出した。
小さい頃、抱き人形が無い、とべそかいてた記憶が。

پاکستان



米屋と隣家の物入れの隙間にこんな看板が。

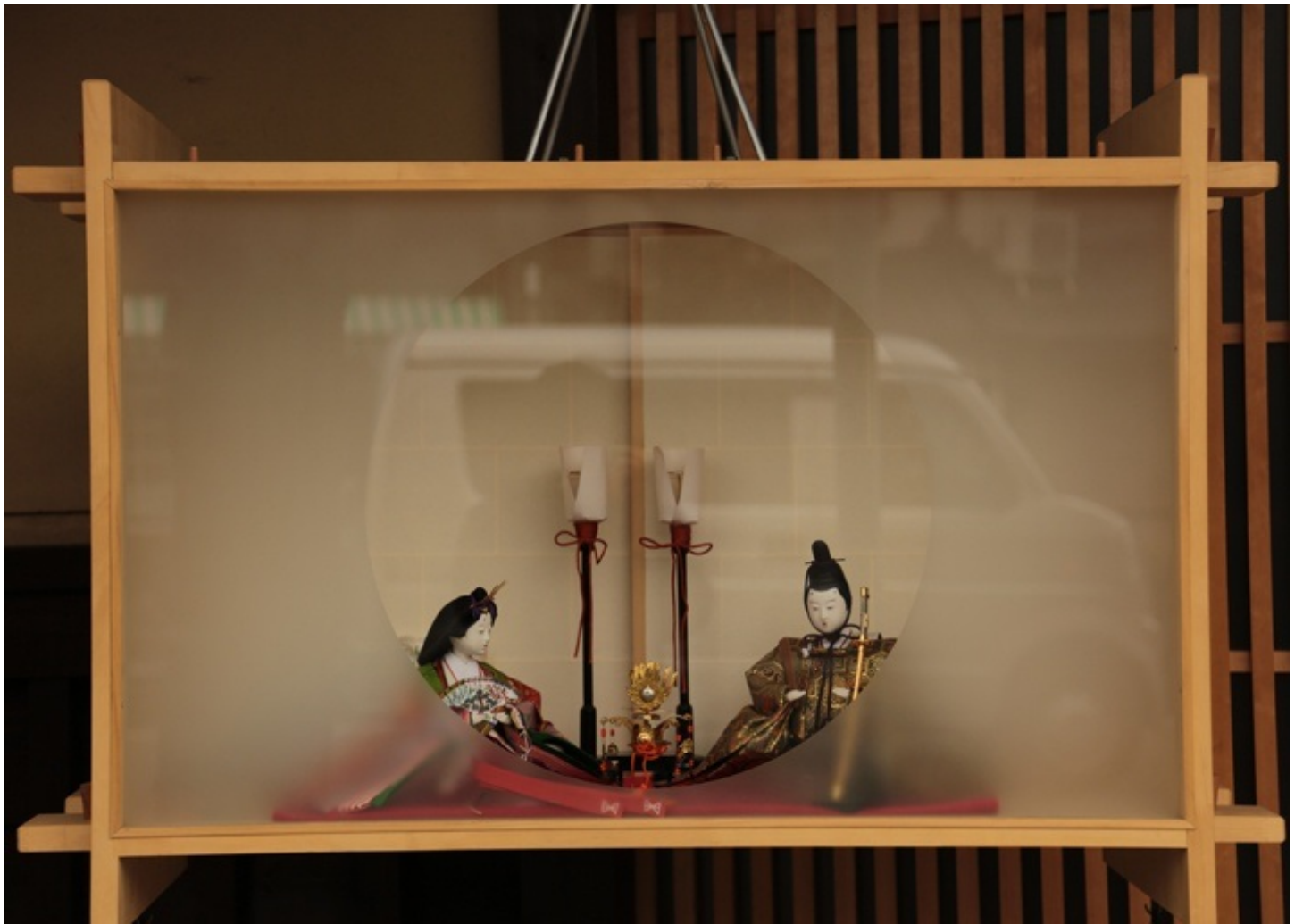


謎の構造の出入り口（前回の疑問がとけました）

左に蝶番がついているのでこの扉全体は、外に向かって開くことができます。

右下の部分は手がかりが掘られているように、左にスライドして
開く事が出来ます。

こっちは小さいおばあちゃんが入り出る、、、んではなくて、
おそらく、豆腐屋さんとか出前とか、中には入れないけど物の受け渡しを
する時に使っているのではないかな、と思われます。



このお内裏さん
向き合ってはるところが、ほのぼのしていいですね。



女性の拳ほどの内裏雛に小さなお荷物が。
良く出来てるわぁ。

「Travelogue ep.01」 <http://p.booklog.jp/book/83694>
 写真集
 「Hina」 <http://p.booklog.jp/book/83499>
 「空と雪と、京都の路地は奥に深いです itu」 <http://p.booklog.jp/book/82880>
 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです yo」 <http://p.booklog.jp/book/82643>
 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mi」 <http://p.booklog.jp/book/82160>
 「からくれないに ni」 <http://p.booklog.jp/book/81713>
 「bleu, jaune, vermillon」 <http://p.booklog.jp/book/81111>
 「H.45」 <http://p.booklog.jp/book/80229>
 「Fly me to Paris I ～ XIV」
 「祇王 こけのころも」 <http://p.booklog.jp/book/74864>
 「空と雨と6月と」 <http://p.booklog.jp/book/74060>

小説

「ネガティブズ2」
 「ネガティブズ」 <http://p.booklog.jp/book/73051>

写真集「空と僕と自転車とni」 <http://p.booklog.jp/book/72996>
 写真集「空と僕と自転車と」 <http://p.booklog.jp/book/72092>
 写真集「空と椿と木蓮と、そして花水木」 <http://p.booklog.jp/book/71344>
 写真集「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」 <http://p.booklog.jp/book/70700>
 写真集「空と雲と、ときどき春の野を行く」 <http://p.booklog.jp/book/70137>
 写真集「空と月と、夜桜デート」 <http://p.booklog.jp/book/69415>
 写真集「空と木と、ときどきの梅暦」 <http://p.booklog.jp/book/68722>
 写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」 <http://p.booklog.jp/book/65536>
 写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/64153>
 写真集「空と木とたまに月」 <http://p.booklog.jp/book/62540>
 写真集「からくれないに」 <http://p.booklog.jp/book/61473>
 写真集「空と雲と、ときどき月」 <http://p.booklog.jp/book/36294>
 写真集「夢みる桜」 <http://p.booklog.jp/book/45286>

「黄金の麦畑」
 1.Largo
 2.Allegro <http://p.booklog.jp/book/58662>

「黄昏の王国」
 イーリアス編
 アリシア編 <http://p.booklog.jp/book/49612>
<http://p.booklog.jp/book/51254>

ー 僕カノシリーズ ー

「僕が彼女に殺された理由（わけ）」 <http://p.booklog.jp/book/31906>
 「僕と彼女の選択の事由（わけ）」 <http://p.booklog.jp/book/35498>
 「僕と彼女はそれしか答えを見つけられなかった」 <http://p.booklog.jp/book/36101>
 「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」 <http://p.booklog.jp/book/36617>
 「僕と彼女と複雑な関係者たち」 <http://p.booklog.jp/book/37238>
 「僕と彼女と単純な関係式」 <http://p.booklog.jp/book/37731>
 「僕と彼女と校庭で」 <http://p.booklog.jp/book/38409>
 「僕と彼女と校庭で 夏」 <http://p.booklog.jp/book/38977>
 「僕と彼女のARIA」 <http://p.booklog.jp/book/46524>
 「僕と彼女のインベンション」（次回）

ー その他 ー

傘がない <http://p.booklog.jp/book/69798>
 夕暮れの赤ちようちん <http://p.booklog.jp/book/42024>
 いもうと <http://p.booklog.jp/book/40794>
 サマータイム・ブルーズ <http://p.booklog.jp/book/34054>
 危険なドライビングマジック <http://p.booklog.jp/book/33630>
 デフラグメント <http://p.booklog.jp/book/33116>
 インフルエンス あのころの僕たち <http://p.booklog.jp/book/32752>
 花舞い、名残り雪 <http://p.booklog.jp/book/32187>

詞画集「ただ憧憬れだけを」 <http://p.booklog.jp/book/34472>
 画集「彼と彼女の表紙画集」 <http://p.booklog.jp/book/39345>